

第30回 土岐市地域公共交通活性化協議会 議事録

日時：平成31年3月4日（月）10：00～11：15

場所：セラトピア土岐・3階会議室

(参加者)

※敬称略

委員	磯部 友彦	澤田 眞司	林 直樹
	若尾 和之 (代理)	勝 雅義	小倉 保二
	塚本 俊一	稲葉 恵弥子	水野 智恵
	中島 美子	佐分利 和代	水野 真紀
	河合 良隆	川上 雅司 (代理)	田口 貴弘
	藤田 勝敏	楓 博元	各務 和彦
	下原 孝一	酒井 幸昌	鷺見 直人
	可知 路博		
事務局	松原 裕一	鈴木 聡	佐橋 直樹

※三輪 やよい、松浦 隆秋、水野 昭人 欠席

■協議事項

(1) 平成31年度予算 (案)

(事務局)

・資料1について説明

歳入については、土岐市からの負担金で、合計4,067千円。

歳出については、会議4回を予定して会議費として424千円、事務費として21千円、事業費として、網形成計画に掲げる事業を推進するため、また第二期網形成計画の策定のため、コンサルへの委託料として3,622千円。

〈意見・質問〉

(委員)

業務委託料について、消費税が上がることで、平成31年度から国交省単価における技師の単価が上がることは決まっているが、その分は考慮されているのか。

(事務局)

消費税については10%を想定している。

人件費単価は、平成31年度の単価を加味した見積もりとしている。

・承認

(2) 駄知町巡回バス（仮称）について

(事務局)

- ・資料 2 について説明

- ・検討の経緯

平成 29 年度には実証実験を行って本格運行を断念したが、平成 30 年度からは地域が主体となって検討を開始した。

6 月からの運行開始を目指している。

- ・予想される収支の概要

土岐市からは一定の補助を行うが、残りを町内会連合会で残りを負担した上で、運賃収入や寄付金が増えれば町内会の支出は減る仕組みとなっている。これまで月 1 回程度の会議を開催してきたが、今後は利用促進を目的とした検討会を開催し、利用者を増やしていきたいと考えている。

- ・運行概要

白寿苑が月曜休みなので、月曜の運行は辞めて火・水・金の運行とした。

1 乗車 100 円で、車両は 27 人乗りの車両を想定しており、委託先は東鉄タクシー(株)を予定している。

- ・バスの名称

現在、駄知町内で募集中で 4 月 10 日が締め切りだ。そのあとで名称が決定する。

- ・運行で留意した事

東鉄バスとの乗継を重視し、朝に町外・市外へ行き、昼前後に戻ってこられるようにした。

- ・のってこ駄知線の廃止

のってこ駄知線を廃止し、それにより、利用者数の増加、一人あたり輸送コストの低下を期待している。

(委員)

住民が主体になった取り組みであることは非常に良い事だ。

一方で、既存の公共交通網を活かす視点も重要だ。国・県の補助から外れそうな路線もある。また、運賃が民間路線と比較して安いことで影響が出ないか。

手続きとしては、のってこ駄知線の廃止と新規路線の設置という 2 つの手続きが要るが、

年度明け早々に書類が出せれば、6月の運行開始に十分間に合う。

(座長)

バス停の設置場所が安全か道路管理者や公安委員会から確認はしてあるか。

(事務局)

運行事業者と運行テストを行い、問題はなかった。

停留所は自主運行バスなどと重複する個所が多いが、新設停留所は民地・私有地をできるだけ活用し、道路から少し入った場所とした。

公安委員会に図面を示して、そのうえで調整した。

(公安委員会)

前任者からの引き継ぎができておらず、具体的には追って確認する。

(座長)

ダイヤについて、運転手の休憩時間が確保できているか。

(事務局)

運行事業者に確認を取って、問題ないとの事であった。

(委員)

運行期間はどのくらいを想定しているのか。

(事務局)

5月末にのってこ駄知線を廃止して、6月から巡回バスを運行することで、切れ目ない運行とする予定だ。バス自体は10カ月を区切りとして利用の状況を見て、2年目以降の申請を検討する予定だ。道路運送法第4条の事業として運行する。

(座長)

資料では運賃収入が「0万円」になっているが、これは書類上の金額と思われる。実際の想定される収入はどうか。町内会の負担が大きく見えるが、町内会はどこまでの気持ちがあるのか。

(土岐市連合自治会長) ※駄知町町内会連合会長として

このバスは駄知町に必要なもので、続けなければいけないものと考えており、会議の皆さんもそういう認識だ。足らないなら足らないなりに継続していく必要があると考えて

いる。

「サロンカー」というようなコミュニティが広がる乗り物にする提案もあり、乗って頂ける工夫をしていくつもりだ。

また、東鉄との乗継については、4月のダイヤ変更も踏まえて新たにダイヤを見直した。どうしても路線が重複するところもあるが、基本的には乗り継いで町外に出られるようにした。

(座長)

町内会の気持ちはよくわかった。一方で市の補助金は続くのか。

(事務局)

のってこ駄知線の補助金額月約10万円を基準とした。当初はそれで進めていたが、このバスにより利用者が増えることが予想されるため、月15万円に設定した。利用者の増減に関わらず一定としているため、将来にも続けられると考えている。

(委員)

高齢者がカートを使用される場合はあるが、バリアフリーの観点はどうか。

(事務局)

車両自体は普通のマイクロバスであるため、バリアフリーではない。カートはたためるのであれば座席に入れることができる。

地元と協議しながら、人による支援のあり方などを考えていきたい。

(委員)

東鉄と協力しながら、相乗効果で利用者を増やせるようにしてほしい。

(座長)

利用者数の調査・検証などは、今後どういう体制でやっていくのか。

(委員)

具体的には定まっていないが、この協議会と町の両方で検討できるようにしたい。

・承認

■報告事項

(1) 公共交通 利用者数報告

(事務局)

・資料3について説明

市民バスは、土岐市駅北側の路線は増加傾向、濃南地区の路線は減少傾向で、全体には横ばい。

のってこは全体に減少傾向。

東鉄路線は、土岐＝下石＝駄知線の利用が伸びており、全体では利用者が増えている。土岐市地域公共交通網形成計画の数値目標は、人口減少の中で維持を目指しているが、利用者は増えているため、今のところクリアしている。

(座長)

のってこは、定時定路線型では拾えないようなニーズを拾っている可能性がある。

変動があればその理由を調べることで知見が得られる。地域間の差が分かれば、他地域への展開の方法も分かってくる。

(2) 平成30年度 協議会事業報告

(事務局)

・資料4について説明

市内高校で、中学3年生を対象に通学マップを配布した。

公共交通ふれあいイベントを、セラトピアで開催した。

駄知幼稚園児によるクリスマスバス飾り付けについて、東鉄バスが実施する事業に市が支援した。

市民バス・のってこの利用実態アンケートについて、年末に実施した。JRとの乗継改善をしたことへの感謝の意見が見られた。

(委員)

通学マップについて、金額がいくら安くなるかなど、定期券のメリットを示してほしい。

アンケート結果について、やや満足や不満の方の意見を報告していただき、改善点を示してほしい。

(事務局)

通学マップについては、来年度に反映させたい。

アンケートの不満の意見は、便数が少ない事やバス車内のマナーに関する意見がみられた。

以上